

## 第27回公立大学法人神戸市外国語大学評価委員会

日時：令和2年8月11日（火）

○企画調整局企画課長

それでは少し定刻より早いですが、委員の皆様、おそろいいただきましたということで、ただいまから、第27回公立大学法人神戸市外国語大学評価委員会を開催させていただきます。

なお、委員の皆様方には事前に御連絡はさせていただいておりますが、新型コロナウイルス感染症予防の観点によりまして、本日は配席も少し変則的になっておりますが、会議の一部をオンラインで実施し、オンラインの委員参加をもって出席扱いとさせていただきます。皆様御異議はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

（「異議なし」という者あり）

それでは、本日は一部の委員につきましてはオンラインで参加いただき、出席扱いとさせていただきたいと思っております。なお、本日の評価委員会ですが、委員の過半数が先ほど、お話ししましたとおり出席いただいておりますので、公立大学法人神戸市外国語大学評価委員会条例第6条第2項の規定によりまして、本会は有効に成立していることを御報告させていただきます。

それでは最初、開催に当たりまして、神戸市企画調整局長の谷口から一言御挨拶を申し上げます。

○企画調整局長

企画調整局長の谷口でございます。どうぞよろしく願いいたします。今日は本当にお忙しい中、また、大変暑い中、また、コロナの対応で先生方本当に大変なお忙しい中、金児委員長初め、各先生方、御出席をいただきました。心より感謝を申し上げます。ありがとうございます。

このコロナの間に各大学とも、本当に大変な状況に置かれているのではないかなというふうに思いますが、神戸市外国語大学においても、学生さんへの対応ということ

に、本当に尽力をいただいているところをごさいますて、この場をおかりしまして、指学長はじめ大学の先生方、また、事務局の皆さんに心から感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

私たち神戸市にとりましても、神戸市外国語大学というのは、本当に大きなブランド力を持った宝でありまして、この学生さんたちをしっかりと守っていくということが大きな使命でございました。そういった観点から、経済的に困窮をされている学生さんがおられると、これは真っ先に手を差し伸べていく必要があるということで補正予算を組みまして、授業料減免の枠を拡大していくとか、あるいはアルバイト等ができない学生さんがおられると、これは外国語大学だけではないですけども、市内の各大学の学生さんたちがさらに困窮することがないようにということで、アルバイトに変わるような何か仕組みづくりということで、学生支援スクラムというような、こういった事業も立ち上げて、今、動かし始めつつあるというところがございます。こういったことで、本当に市を挙げて、神戸市で学ぶ学生さんたちを支援し、そしてまた、行く行く神戸でしっかりと働いたり、あるいは神戸からいろんなところへ活躍の場を広げていく。こういったことができるとうれしいなという、そういった思いで取組を進めているところがございます。

また、一方で、このコロナの関係で大学の先生もそうですし、学生さんもそうだと思いますけれども、今まで経験したことないような対応をせざるを得ないということで、オンライン授業を初めいろんなことを新たに始められているところでもありますけれども、ある面、考えてみますとオンライン授業についても、これまで自分たちがやってきた、どちらかというたとえば授業に参加をするけれども、実際に双方に会話をするということが、場合によってはなかったかも分かりませんが、そういった場面についても、むしろ主体的にいろいろ考えながら対応するという、そういった学びも深めることができる学生さんたちも多く出てきているのではないかなというふうにも思います。そういった意味では、このコロナを機に、これを前向きに捉えて、主体

的な学びを深める場ということ、そういったタイミングということ、捉えるということも可能なのではないかなというふうにも思っております。そういった意味でも、今日、御議論いただきます昨年度の事業評価に加えまして、これからのコロナの時代、ウィズコロナの時代において、こういった学びをしていくべきかということにつきましても、できましたら、委員の先生方からもいろいろ、様々な御指摘、御指導いただければありがたいなというふうにも思っているところであります。

またあわせて、今日、ガバナンス・コード、昨年もガバナンス・コードについての御指摘をいただきましたが、これについて御議論をいただくということになっておりますので、ぜひ、ガバナンス・コードについての御示唆、あるいは御指導をいただけるとありがたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

限られた時間ではございますけれども、有意義な評価委員会になりますことを祈念いたしまして、冒頭の御挨拶とさせていただきます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

#### ○企画調整局企画課長

それでは、委員の皆様方におかれましては、配付資料の確認を改めてさせていただきたいと思っております。全てインデックスつけさせていただいてございますが、資料の1から7まで7種類の資料と、あと参考資料としまして、地方独立行政法人法の抜粋という資料をつけさせていただいてございます。特に過不足等ございませんでしょうか、よろしいでしょうか。

それでは、これからの議事進行につきましては、評価委員会、金児委員長にお願いしたいと思います。

それでは、金児委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

#### (1) 2019年（令和元年）度業務実績に関する評価について

#### ○金児委員長

7月までは毎日のように雨が降って、比較的蒸し暑いけれども過ごしやすかったんですが、8月に入って急に炎暑となりまして、今日は今年の夏で一番暑いんじゃないかと思えますけれども、どうぞ議事進行によりしく御協力をお願いいたします。

まず議題の1番目、2019年度業務実績に関する評価の議事に入りたいと思います。

本日は、外国語大学から前年度の業務実績、資料1につきまして説明をまずしていただき、その質疑を行います。

次に、あらかじめ委員の皆様からいただいております御意見等を基に、私と事務局で評価の案を資料2としてまとめておりますので、それを事務局から説明を頂きます。その後、質疑を行った後に評価を決定いたしますが、その際は、外国語大学の皆さんには一旦、御退席をいただきます。委員の皆様は資料1、資料2を基に、外国語大学並びに事務局の説明をお聞きください。

また、説明をお聞きいただく際には、SからCの4段階評価及び評価の文面についても併せて御検討いただければと思います。それでは、業務実績につきまして外国語大学から説明をお願いいたします。

○神戸市外国語大学 指理事長

神戸市外国語大学の理事長の指でございます。よろしくをお願いいたします。まず御挨拶として、これまで金児委員長初めとしまして、委員の皆様には、本学の運営に関しまして、いろんな貴重な御意見を頂戴しております。今日もまた、貴重な御意見を頂けるかと思えますのでよろしくお願いを申し上げます。

さらに今日は、先ほども皆さん、御挨拶がありますように、ニュースで見えておりましたら、今日は伊勢崎で40度を超えたそうで、今年最高の気温のようですが、幸い、神戸はそこまでではなくて、風も吹いておりますので熱中症にならないように説明は簡単に進めさせていただきたいかなと思います。本学は現在のところ、中期計画の第3期の2年目に入っております。18歳人口が減少しております中で、大学の置かれ

ている状況は非常に厳しいものがございます。ただ、神戸市のほうの御理解もいただきまして、魅力のある大学になって、こういった状況乗り越えていきたいというふうに考えておりますので、そういった意味で、いろいろな御意見を頂ければと思います。本日は、2019年度の業務実績に関しまして、委員の皆様御意見を頂いて、今後の運営に反映させていきたいというふうに考えております。

では簡単に、2019年度の業務実績の報告について、説明させていただきたいと思っております。資料は1ということになりますので、御覧いただければと思います。

これは2019年度の年度計画に掲げました事業の実施状況をまとめております。それに大学の自己点検評価を行ったものになります。まず、総括的な部分といたしまして、1として項目別評価、これは中期目標の項目ごとの評価になります。そして、各事業の詳細の実績を記しました2. 項目別評価。同じ項目別評価ですが、こちらは中期計画の項目ごとの評価になっております。

具体的な実績の内容は、後ほど説明させていただきますけれども、合計で47の項目がございまして、例年どおり、4段階の評価をさせていただいております。今回の自己点検評価では47項目のうち、順調に進捗しているA評価が45項目になっております。そして、特筆すべき進捗状況であるS評価を一つつけさせていただいております。そして、やや遅れているBが1項目ございます。時間の関係もございまして、本日はS評価の1項目とB評価の1項目の説明をさせていただきたいと思っております。

お手元の資料の5ページになります。資料1の5ページになりますが、よろしいでしょうか。5ページですので、ちょっと向きが変わった部分になりますけれども、一番左側の欄には中期計画を記載しております。その右側に年度計画もございまして、2019年度の実施状況がありまして、評価ってということになっております。その右側が評価理由を上げさせていただいております。

特筆すべき進捗状況であるS評価につきましては、20ページのところになります。ちょっと後のほうになりますけれども、20ページのところに「優秀な語学教員の養

成」という項目がございまして、ここにS評価をつけさせていただきました。教育実習対策のための模擬授業セミナー、それから、採用試験対策セミナーを開催いたしましたりして、教員を目指す学生の支援を行いました。その結果として、数値目標としては、神戸市の教員採用試験における一般合格率というのを指標にしているわけですが、それを上回るというのを目標にしておりますが、2019年度は約5倍、その数値の5倍を実現することができました。ということで、特筆すべき進捗状況であると考えて、S評価をつけさせていただいております。

次は、やや遅れているB評価になりますけれども、これは戻っていただいて6ページになります。6ページのところに「新たな教育課程の構築に伴う教育組織の改革」という項目がございまして、年度計画にありますように、国際関係学科の教育課程、カリキュラムの改革に向けて国際関係学科と法経商グループの教員組織を統合しております。そして、全学コース制、五つのコースですね——語学文学、国際法政、経済経営、多文化共生、リベラルアーツの理念は決定いたしまして、公表しております。しかしながら、そこに上げております第2部英米学科の検証結果を踏まえて、カリキュラム等の改革についてどうするという部分につきましては、まだ、方向性について議論をさらに進めていく、そして、実際の改革に進めていくという作業が、まだ途中でございますのでB評価とさせていただきました。

ということで、今年はS評価が一つ、B評価が一つ、あとはAということですので、説明はそのSとBということで、終わらせていただきたいと思います。

以上、簡単ですけども、説明を終わらせていただきます。

○金児委員長

ただいまの指学長からの御説明につきまして、どなたからでも結構ですので、御意見を頂ければと思います。よろしく申し上げます。

じゃあ、私のほうから、優秀な語学教員の養成という点、何ページでしたかね。

○事務局

20 ページです。

○金児委員長

まず、御説明ございましたように合格率、これについてはもう、突出して、いい成績を学生たちは収めているわけですがけれども、この実施状況の中のパーセントだけじゃなくて、実際の数値ですね、何人受けて何人採用試験に合格したかという、その実数を知りたく思いますので、それが1点。

それからもう一つ、優秀な語学教員とありますけれども、採用試験に通ったら、それが優秀なのかどうかという、優秀の定義が定かでない。私は、優秀な語学教員というのは、生徒たちに温かいスタンスで接して、生徒に思いやりを持って、そして御自分も高い倫理性を持って教育に当たる、これが優秀な教員となる前提だと思うんですね。しかしながら、ここでは、合格率だけで優秀なのかという、そういう疑問を持たざるを得ないので、その点について本当に優秀かどうかは、実際に採用された、先生となった学生が現場に行って、他の校長、教頭から優秀だという評価を本当に得ているのかどうか。実際に、優秀であるという、この実績、指標が欲しいわけなんですけれども、これまでずっとこの項目については、私も、そら大したもんだなというふうにしてきたんですけども、今般改めて、この項目について意味をつらつら感ずるに、これで本当に優秀な証拠になるのかという、そういう疑問を持つに至りまして、この点について、ぜひ御説明をお願いしたいと思います。

○神戸市外国語大学 指理事長

まず、教員の数字については、今調べさせて、ちょっと私の手元にも人数の資料がございませんで、後半の、むしろ、耳の痛い御指摘のほうですけれども、いわゆる、教員の資質ということになりますと、今年はそういう事例として、具体的な事例としてはお示しできませんでしたがけれども、例えば、昨年、たしか、この場で披露させていただきましたようにグローバルティーチャー賞、世界で50番に入ったような教師なども輩出しておりますし、それが一つの指標、具体的な例としては、そういうの上

げられるかと思いますが、確かに、委員長が御指摘のように、客観的にそれじゃあ、本学の卒業生の、教員になった者のクオリティーが高いかどうかというのは、正直、客観的な数値というのはございません。

少し弁解じみた言い方をさせていただきますと、昨今、なかなか、教員採用に合格するというのは、一般的には難しくなっておりますので、教員免許状は持ってても採用試験には通らないわけですから、こういう形の高い合格率であれば、一応、それなりのクオリティーの持った教員を養成しているというふうに判断できるかなっていうふうには思っております。

ただ、終わってから、つまり、就職してからの現場の評価というものを、何らかの形でフィードバックするようなシステムは確かに必要かなと思います。それにつきまして、少しあるかな、それに類したものということで行きますと、本学を卒業して英語の教員になっている卒業生はかなりおりますので、そういう卒業生の団体のような英鵬会ってというような組織がございまして、そこで研修などをいろいろしたりもして、卒業生自身が自らのスキルを高める、そういう試みもしていただいているというところは、本学の強みかなというふうに考えております。

具体的な数値的にはお示しできませんけども、説明させていただきました。

#### ○金児委員長

最後、学長がおっしゃったことに関連するんですけども、卒業生の実態調査、調査とまでいかななくても、卒業して企業に勤めて、そして、その企業でうまく適応して活躍してるのかどうかということを、定期的に大学のほうから企業等に対して電話でもいいですから、元気にしてるかとか、そういうふうなことを行った上で、卒業後もケアをするという、卒業して一定の年数、3年以内で職を離れるというのが非常に以前から多いという問題が指摘されておりますので、そういうことをなくすという意味でも、語学教員になった学生についても同様にケアを行っていただくと、その中で頑張るとか、そういうふうな声も聞こえてくるかと思っておりますので、優秀な教員に育ちつつ

あるという、そういうことを確かめることができるんじゃないかと思しますので、また、よろしく願いいたします。

○神戸市外国語大学 指理事長

ありがとうございます。一般企業に勤めた者につきましても、同窓生、若い同窓生なんか、そういう横のネットワークを最近つくり始めていまして、情報交換なんかをしているようですので、その辺、本学の学生っていうのは、小ぢんまりした大学であるので、在学期間中にお互いに人間関係をつないでいますので、卒業後もそれをうまく生かす仕組みをつくりつつありますので、そういうものに大学も協力していければなというふうに考えております。いろいろ御意見、またいただければ幸いです。ありがとうございます。

○神戸市外国語大学 田中理事（総務担当）

実数、今、資料の手持ちがございません。また、後ほど、お答えさせていただきます。申しわけございません。

○金児委員長

ほかにございませんでしょうか。

資料1のそれぞれの中期目標の項目評価については、逐一、御説明を受けなくて、以前にそれぞれの委員の方々に直接説明に上がっていただいているのでよろしいかと思うんですけども、1点だけお聞きいたします。

それは、資料1の1ページにあります。兼修外国語という語学ですね、兼修語学。これは、例えば、英米学科専攻の学生にとって兼修語学というのは、素人の理解ですけども、専攻する言語のほかに、もう一つ別の外国語を習得するのが兼修語学というふうに理解していいんですか。

○神戸市外国語大学 指理事長

はい。そのとおりです。

○金児委員長

そうすると、英米学科の学生の兼修語学は、例えば、この学生はイタリア語であるとか、そういうことになるわけですね。

○神戸市外国語大学 指理事長

はい。本学の場合、中国語、ロシア語、スペイン語、そしてドイツ語、フランス語が英米学科の学生に用意されております。

○金児委員長

いわゆる、我々が学生のとくに、第1外国語、第2外国語というふうな、そういう履修科目で呼び名がありましたけど、それとは違うんですか。

○神戸市外国語大学 指理事長

それに類似したものです。本学の場合、兼修語学というふうに。

○金児委員長

第2外国語と理解してもいいわけですね。

○神戸市外国語大学 指理事長

はい。それで結構です。

○金児委員長

それで、この全学コース制ということなんですけども、この全学コース制の理念というのは、それぞれのコースの中でどういう学生を育てていくかというのが理念に相当すると思うんですけれども、それは、なかなか昨年度は、最後まで決まらなくて、最後の土壇場になって決まったというふうな、そういう感じなんですけども、5学科でしたかね。学科がまずあって、そして、この学科の学生それぞれが全学コース制度の中のコースを選択する。

そして、さらに兼修語学も同時に存在していると。学生にとっては、かなりややこしいというか、私、一体どういうふうな、英米学科に入ったけれども、どのコースを選ぶとか、そのコースを選んだならば、そのコースにふさわしい兼修語学がひょっとしたらあるかもしれないし、そういうことを指導するのはなかなか難しい。例えば、今、

当然、学生にとって用意しておくべきものはカリキュラムマップであるとか、あるいは、ナンバリングであるとか、そういうものが用意されないと、この仕組み、履修システムを理解するのはなかなか難しいと思うんですけども、そういうものは用意されているんですか。

○神戸市外国語大学 指理事長

現在、そのカリキュラムマップ等は鋭意作成中でして、実際この仕組みが動くときには、学生にはちゃんと提示するような段取りになっております。

○金児委員長

先生方が説明するのは、御自分たちがつくったものですから簡単でしょうけども、学生にとってはかなり難しいと思うんですね。自分の本当に、自分の要求、期待、学力、それに見合った選択は一体何かということ自分で決定しないといけない。恐らく、これは分からない、なかなか難しい、学生にとっては先生方のアドバイスがあるんでしょうけども、そういうことが、実際に学生にとって、親切にケアされているのかどうかということについて、少し中身を知りたいと思うんですけどね。これ、来年度のことなんですか。

○神戸市外国語大学 指理事長

そうですね。コースに分かれますのは2年次からというふうに今、想定しておりますので、今度入学した学生から、この仕組みになりますから、1年間はいろんな授業を履修して、そして、2年次になるときにどのコースを選ぶかという形になります。ですから、それまでに、きちんとかいことが勉強したいのであればこのコースだし、それにはどういうゼミがありますとかいうようなカリキュラムマップですね、そういうものをきちんと提示して指導していくという。

○金児委員長

指導の場合は恐らく、学生一人一人に個別に指導しないと、学生は納得できる選択をするのは、なかなか難しいと思うんですけどね。

○神戸市外国語大学 指理事長

そうですね。その辺、相談窓口等工夫していく必要はあるかなとは思いますが。

○金児委員長

そこはよろしく願いいたします。

ほかに、ございませんでしょうか。

どうぞ。

○吉井委員

神戸大学の吉井です。

仕事柄、毎日、評価書を眺めていて気になるところが2点ありますので、お尋ねをしたいと思います。

まず最初は、質問ではなくて完璧な、意見です。私どもは国立大学で、提出先は文科省でもっと分厚い、本当に、7月末に法人評価書と提出しました。およそ1,000ページありまして、こんなものなぜ、毎年毎年、6年に1回つくらなきゃいけないのかと。毎年のもので数百ページありまして、非常に無駄なことをやっているということを自覚はしていますが、非常にこのシンプルなものを見てると羨ましい反面、先ほどの、金児先生の質問もそうだと思うんですけども、Sをつけるときに、5倍だからという説明をされることについて、それ自体いい、悪いということ言ってるんじゃないんですけども、5倍だからどうこうと言っているわけでもないんですが、恐らく、今の毎年度の評価でいくと、こういうことを去年はこういう結果だった、この点についてこういうことを反省し、こういうことをやったからこういう結果になったという、言ってみれば、あまり好きな言葉ではないんですけども、PDCAが回っているということの結果、数値が5倍になったっていうことであれば、非常に納得しやすいんですが、その辺がちょっと、全ての項目について、例えば数値目標を上げろと、そんなことも言いません。こんな、毎度やられているので、それについては全ての数値目標をかけて全てPDCAを回せというのも物すごく無駄な努力だと思うんで

すけれども、やはり、大学としてここはぜひ重点だという項目については、今言ったような数値目標が、PDCAを回してきれいに出ているということを示していただけたら、非常によかったのではないかという感想です。

それから、もう一点ですけれども、28ページに5番の自己点検及び評価の適切な実施の(2)の内部質保証システムの構築というところですが、すみません。市の方にはあまりなじみないと思うんですけれども、大学設置基準の中で、昨年改正されまして、内部質保証体制を構築せよということになっています。それに従って、我々も慌ててつくったところですが、神戸市外大の場合には前回は認証評価のときで、前回調べたら16年です。23年に受けられて。そこで、昨年度つまり19年度、今年の3月に質保証方針を策定されたので、今、細かいシステムづくりをされているということだと思っただけです。そうすると、ですので19年度はこれで、ある程度いいと思うんですが、20年度のところで、まず、内部質保証体制を確立して、例えば21年度に回して、22年度その1年間、21年度動かした結果を22年度に評価して、それで、必要なところは改革をし、23年度の認証評価を受けるといような流れを考えておられるのか、これだけ読むとその辺、少し間に合わないんじゃないかなっておそれも感じたので、お聞きする次第です。

以上、2点です。

○神戸市外国語大学 指理事長

まず今、御指摘の点ですけれども、確かにぎりぎりです。我々の執行部の頭の中では、これでぎりぎり1回回せるという算段です。先ほど、金児委員長からの御指摘のあったカリキュラムツリーであるとか、そういうものも昨年に策定しまして、2023年までに一度回せる、そして、検証するという心づもりではあります。

○吉井委員

期待しております。むしろ、私、大学基準協会 基準委員会委員もしていますので、ぜひ、うまく回りますようお願いいたします。

○神戸市外国語大学 指理事長

そして、前半の部分ですけれども、確かに、経年変化であるとか、こういう形で数値が出ているので、こういう評価にいたしましたという形のもの、そういう提示の仕方というのはもちろん理想であるというのは承知しております。ただ、今回、Sをつけさせていただきました教員採用につきましては、本学の努力だけではなかなかうまくいかなくて、採用側の人数は毎年変わりますので、その辺がなかなか数字として出せない。初め、実はちょっと内輪話になりますけれども、A評価かなという意見もあったんですが、それは、去年に比べると、パーセントは下がっております。ただ、下がっているんですけれども、平均値に比べるとすごくよくなっているのかなと、どちらのほうを見るかによって、大分違いますので、その辺が、相手さんのある、教員採用なんかでしたら、相対的な位置づけで本学の位置が優れているのであればS評価しようということで、Sをつけさせていただきました。

○金児委員長

今、吉井先生のほうから内部質保証システムについて御意見があったので、私もちよっとお聞きしたいと思っていたことがあります。

それは、内部質保証推進の主体となる組織を設置するというので、その組織は、評価企画会議を設置したということですがけれども、その会議の構成メンバーはどういう人たちによって構成されているんですか。

○神戸市外国語大学 指理事長

いわゆる執行部と言われる学長、副学長と、そして、やはり、カリキュラムとか授業関係ですので、カリキュラム部会と、そして、アドミッションに関係しますから入試研究会、入試とそして、学部というか、カリキュラムに関係する部会の委員長に入って、それから教員も当然、授業改善につなげていくために、FD推進部会の部会長に入らせていただいております。

○金児委員長

内部質保証といった場合、主たる内部質保証の論点というのは、教育研究、特に教育であることは、ただ、衆目の一致するところですけども、だけど、それを支えるための組織、経営、それも内部質保証の構成する重要なキーワードになるわけで、そうすると教員だけでこの会議が構成されているのではなくて、もちろん、職員も入っているのですか。

○神戸市外国語大学 指理事長

入っております。そこは、今ちょっと省略させていただきましたけど、もちろん、事務職員も入っております。

○金児委員長

その会議には職員も入って、そして保証を促進するための議論をここで行っておられる。そういうことがこの資料からは全然見えてこないの、そういうことは非常に大事だと思いますので。今後もそれを続けていただきたいと思います。

それから、内部質保証を推進する場合に、今般のコロナの問題ですね。これも、非常に重要な、これ話をするとちょっと時間をとられるので、もうやめときますけども、そういうことも、当然話をされていると思います。この内部質保証推進のための評価企画会議というのは、これは、今、おっしゃったFD委員会、あるいはSD委員会、その上位に相当するものだというふうに考えていいわけですね。

○神戸市外国語大学 指理事長

上位に位置します。

○金児委員長

そうすると、大学の方針、その広い将来的な方針を視野に入れた議論をここで行っているんだと、そういうことでいいんですね。

○神戸市外国語大学 指理事長

結構です。

○金児委員長

評価企画会議は教授会との関係はどうなっているんですか。

○神戸市外国語大学 指理事長

一応、学長直属の学内組織ですので、教授会がその下にぶら下がるということではございません。ですからそこで方針を決めまして、各部会に下ろしてという形になります。

○金児委員長

下ろした場合に、教授会から異論が出るとか、そういうことが起こらないですか。

○神戸市外国語大学 指理事長

それは意見がでてくる可能性はあるかと思います。

○金児委員長

そこはちょっと気になる場所ですね。

○金児委員長

それから、柔軟で機動的な大学運営の1番目、自律的・効率的な大学運営のところ  
で、専任教員による学内理事3名の副学長兼務を実施するとありますけれども、学内  
理事を増員したというふうに、どこかに記載がありましたけれども、今、学内理事より  
むしろ、学外理事をどんどん入れなさいって方向なんですね、文科省も中教審も。そ  
して、我々私学の人間も。学内理事は、えてして妥協、なあなあになってしまいます  
ので、学内理事が増えれば増えるほど、組織としては非常に、内にこもったものにな  
ってしまうので、学外理事をやっぱり入れたほうがいいと思うんです。それについ  
ては、どう考えてはるんですか。

○神戸市外国語大学 指理事長

現在、学外理事が2名入っておりますので、バランス的には、むしろ、同数ではあ  
りませんが、ちょっと、吉井先生にお聞きしたいんですけど、国立大学よりは外  
の人間が二人いるのは、この規模であれば、大きいのかなというふうに。

○吉井委員

まず、学外理事は2名いなければいけないということ。昨年の3月までは、文科省から天下っている事務局長が学外理事扱いになっていたのですけれども、そのときの大臣、柴山さん、その前かな、の方針で、それはおかしいだろうということで、学内理事扱いにするということになりましたので、現在、例えば、神戸大学も純粹に二人、非常勤の学外理事を置くようになっていきます。その去年の3月、4月時点、4月1日時点で、新規でも認めない、新規の渡りの事務局長は学外理事扱いはしないと。従来からおられる方は、その任期が終わるまでは学外理事扱いをするということになっていきます。

○神戸市外国語大学 指理事長

ですから、もし本学も事務局長が学外であるならば、同数ということになりますので。確かに、ただ、学外のそういう意見であるとか、見識というのを活用しなさいというのは、神戸市長の考えでもありますので、その辺は、今回は、2019年に関しましては、教育研究評議会のほうに学外の委員に入ってくださいました。実は、これまで規程はあったのですが、そこを満たすということをしておりませんでしたので、今年度から、学外の委員に入ってくださいしております。できるだけ、外の意見を反映するような仕組みに徐々に持っていくつもりではおります。

○金児委員長

同窓生、つまり卒業生で、ステータスを確立している人を理事にするなども考えてほしい。

ほかに、ございませんでしょうか。

○三成委員

よろしいでしょうか。確認なんですけれども、Bの評価がついているところについて、ちょっと御説明もあったかと思うんですが、確認をさせていただきたいと思います。このB評価がついているというのは、第2部英米学科の検証が十分にできなかったというのが、最大の理由なんですか。

○神戸市外国語大学 指理事長

そうです。2部の検証まではしてるんですけど、カリキュラム等の改革の具体案をまだつくることができなかつたということでBにさせていただきました。

○三成委員

その今後の方向性についての、というのは、本来、どのような議論ができていたらA評価になったということになるんでしょうか。つまり、今後の改革、全体の展望としてはどういうことになるんでしょうか。

○神戸市外国語大学 指理事長

現状をお話させていただきますと、2部をこうしてはどうか、ああしてはどうかというアイデアの段階はいろいろ検証しております。ただ、具体的に、それじゃあ、ここをこういうふうに変えよう、こういうふうにしようという青写真まではつくることができていないということで、B評価にしております。ですから、議論を全くしてないんではないんです。

○三成委員

それは分かるんですけども、どのような青写真をつくりたいのかということ自体の何か展望というのは、それはあるんですか。それ自体もまだないということでしょうか。

○神戸市外国語大学 指理事長

それは、どのレベルの検証かということですが、役員会レベルでの検証ということでしたら、やはり、2部英米科ということで、現在学部の英米科のコピーを2部につくるという理念でつくられておるんですけども、それは、ただ、この時代にそぐわないのではないかということ。それから、やはり、できたのが戦後すぐですので、やっぱり、勤労学生というものを前提にしている。しかし、現在の社会情勢で考えますと、いわゆる、昔風の勤労学生というのは、ほぼ、皆無に近いと。むしろ、2部に来たから働いているという、話が逆転しているところがございしますので、そう

いうライフスタイルとか価値観の変化に合わせた2部のあり方というのを考えているという、そういうところでのコンセンサスを得ております。

○三成委員

ありがとうございます。

○金児委員長

2部はやっぱり必要なんですか。

○神戸市外国語大学 指理事長

そうですね。いわゆる、昔風の勤労学生というものの学部だというふうに考えると、かなりもう存在意義は薄くなっているかなと思いますけれども、逆に働き方のいろいろなパターンですね。昼に働いて晩に勉強したいというふうな、そういう需要というのもございますので、意外に、本学のレベルも高うございますし、志望する学生も多いということがありますので、やはり、その辺をうまく受け止めて、そして、魅力のあるもの。私なんか勝手に思っているのは、本学の2部だから行きたいという学生というのをつくりたいなというふうに。どうしてもまだ、2部と昼間、学部であれば、学部のほうに本来は希望するんだけど、2部でということがありますが、そうじゃなくて、昼間の学部よりも2部のほうが、神戸外大の2部は魅力的だよという、そういうところまで持っていければ、大学の魅力アップになるのかなというふうには考えていますけれど、なかなかその辺は。

○金児委員長

本当にそれ可能かどうか、僕はちょっと疑問を持ってるんですけどね。

○指理事長

はい。

○金児委員長

実は、大阪市立大学で商・経・法・文、文系4学部には2部がありましたけども、僕の学長時代に、もう廃止したんですよ。というのは、さっきもちょっとおっしゃった

けども、1部に入学するだけの学力はないと。だけど、卒業したら2部というレッテルはなくて、大阪市立大学の卒業生だということで、だから、2部に行きたいという、こういうちょっと本心とは、少し曲がったようなそういう動機を持って入学してくる2部学生が圧倒的に多いんですね。しかも、教員の負担になるし、2部手当は多少ありますけれども、教員のかんりの負担になっている部分もあるし、ですから、結局2部を廃止して正解でしたですけどね。2部の存在意義っていうのは、今の時代に本当にあるのかどうか。それはもう少し検証する必要があると思う。

○神戸市外国語大学 指理事長

実は、本学における2部の検証というのは、実は、四半世紀ずっと続いておりまして、私がこの大学に来たときから始まったときにはもう既に2部を考えるセクションがありましたので、ずっと検証してるんですけども、ただ、検証の仕方が悪いのかもしれませんけども、これはどうしようもないから廃止しようという流れにはこれまでなかったことがなくて、やはり、それなりの成果を上げてますし、需要もありますし、そしてやっぱり、学生の質が2部だから劣るということはないんですね、本学の場合。例えば、ちょっと、例としていいかどうか分かりませんが、模擬国連なんかで活躍する学生なんかにも2部の学生は結構多いですし、そういう意味で、就職のときも遜色ありませんので、その辺を考えると2部を廃止するという発想は、ちょっと学内ではあまりない。

○金児委員長

学内であまりない。

○指理事長

はい。

○金児委員長

そうですか。むしろ、市議員の中に一部、2部を廃止するのに反対する強力な団体がありましたけどね。ほかは今御時世の中には廃止してもしかたないなど、せざ

るを得ないなという意見をお持ちの議員のほうが多かったですけどね。それは検討課題として常に上がってきますので、よろしくお願いします。

○神戸市外国語大学 山口副学長

補足させてもらってよろしいですか。副学長の山口と申します。

私、英米学科教員ですので、実際に2部の授業を担当しておりました。英米学科の教員の中で2部に対する信頼って結構厚いものがございます、どういうところを評価するかと申しますと、社会人枠というのがございまして、それが大体、2部学生90人のうちの30人が社会人枠という形でとっています。いながらにして、異文化交流みたいな感じになってきているのが事実です。つまり、年齢層が多岐にわたっておりまして、今の若い学生は、自分たちの年代か父親、母親の年代としかしゃべらないという形があるんですけど、そういう形じゃない、ちょっと多様な学生が集まってきてまして、授業をやって、結構、これは楽しい、教員も反応としては、結構、2部はおもしろいねんっていうふうな形で、やれてるところがございます。私は、例えば、ゼミなんかも学部と2部を一緒にしてるんですけど、それを一緒にしてるのは、多様な人が、いろんな見解を持っているので、そういうことを議論するときに、非常に便利だっていうふうなことがあります。そこが、プラスの面で。確かに2部に関しては、学力に差があるんです。上位に来てる学生は、本当によくできて、うちの学部の学生で遜色がないという形で、逆に、個性的に活躍する学生も出ているんですけど、だから、問題もございまして利点もございまして、それを何とか生かせないかというふうには考えている教員も多いというふうに感じています。

○金児委員長

分かりました。

ほかに御意見、ございませんでしょうか。

○神戸市外国語大学 指理事長

補足がございますので。

○神戸市外国語大学 田中理事（総務担当）

先ほど、御質問ございました教員の人数、実数のほうでございます。2019年、受験者が15名で採用者数が8名、15分の8でございます。資料でございます合格率が53.3%、15分の8の53.3%でございます。

○金児委員長

15人というのは多いとみなしていいんですかね。少ないんですか。

○神戸市外国語大学 田中理事（総務担当）

そうですね、ここ数年間、受験者は少し減少傾向でございますが、合格率は比較的高い水準で推移しているところでございます。大体50から、50%以上で推移はしております。

○金児委員長

分かりました。

それでは、続きまして評価委員会の評価（案）につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

○企画調整局企画課長

それでは資料2に基づきまして、になります。2019年度令和元年度業務実績に関する評価につきまして、事務局から御説明をさせていただきます。

この評価（案）につきましては、冒頭、金児委員長からの御説明にもございましたが、事前説明を各委員さんにさせていただきました際に頂いた御意見を基に、評価（案）として、事務局でまとめさせていただきます。これを基に最終的な評価につきまして、皆様に御議論いただければというふうに考えてございます。

それでは最初、資料2の1ページをお開きいただきたいと思います。「はじめに」ということで、まとめページをちょっとつけさせていただきますが、今回の評価をいただくこの位置づけを記載させていただくとともに、評価方法と委員名簿をそれぞれ掲載させていただきます。この冊子の中身でございますが、順番に、

次の2ページから3ページにかけては、全体評価につきまして。そして、4ページから8ページにかけては、中期目標によります項目の評価。そして、最後が9ページ目以降につきましては、中期計画に基づく項目評価をそれぞれ掲載させていただいております。

順次、評価（案）について御説明させていただきますが、資料2の9ページの中期計画に関する項目評価を御覧いただきたいと思っております。一番表の右端に評価委員会評価ということで、我々事務局でまとめさせていただいた評価をS、A、B、Cの4段階評価を記載させていただいております。なお、参考としまして、法人自身の評価も自己評価欄にそれぞれ記載させていただいております。なお、今回、全項目を通じまして、事務局の評価（案）としましては、金児委員長と相談させていただきました結果、法人の自己評価と全て同一というふうにさせていただいております。

順番に見ていただきますと、9ページの上から3つ目の評価につきましては自己評価と同じくB評価ですね。そして1ページ飛ばしまして11ページにおきましても、同じく、先ほど御指摘ございましたが、語学教員の合格率につきましては、一応、自己評価と同一のS評価、と今の段階ではさせていただいております。

それぞれの評価について、細かく御説明させていただきますので、4ページ目にお戻りいただきたいと思っております。中期目標の項目評価というところでございます。それぞれの項目につきまして、自己評価とともに評価委員会の評価としまして、A評価をつけさせていただいております。まず、（1）グローバルに活躍できる人材の育成という項目につきましては、兼修語学の習熟度別クラス導入の検討並びに専攻語学における習熟度別クラスの効果と問題点の検証をしっかりと行っているということ。そして、全学コース制の理念の徹底であるとか、AO入試の新規実施など、教育プログラムの発展的充実を図っていること。さらに、海外インターンシップ派遣先として、サンフランシスコを新規開拓するなど、学生の進路支援の充実を図っていることといったことを理由にA評価とさせていただいております。

次に、5 ページ目を御覧いただきたいと思います。(2) 高度な学術研究の推進の項目でございますが、科学研究費、いわゆる科研費ですね。の補助金に関する説明会を引き続き実施し、科研費の新規採択率が向上したこと。さらに、国際会議やセミナー等の開催支援制度に基づく、学会の2020年度開催を決定したこと。さらに、新たに中国の南開大学文化院との学術交流協定が締結されたことなどを理由に、こちらもA評価とさせていただきます。

続いて、お隣の6 ページを御覧いただきたいと思います。(3) 大学ブランドの確立と戦略的な魅力発信の項目でございますが、同じく、項目の評価につきましては、広報戦略の担当部署の充実が図られたということ。さらに、教職員の広報意識を高めるための取組を進め、学内の情報収集を行う仕組みを構築したこと。さらに、高校訪問を引き続き実施するとともに、ユーチューブ公式チャンネルの設置や新聞広告などの新たな企画に取り組んだことなどを理由にしまして、こちらもA評価とさせていただきます。

続いて、7 ページをお開きいただきたいと思います。(4) 神戸と世界の架橋の項目につきましては、交流協定大学の提携方針や新たな協定締結など、引き続き留学促進を積極的に図った結果、多くの学生の派遣につながったこと。さらに、教員を志す学生への支援を行いました結果、教員、教育採用試験の合格率が大幅に目標を達成するなど、神戸市の教育拠点として一定の役割を果たしたこと。さらに、市民向け講座の実施であるとか、ラグビーワールドカップなどに学生がボランティア参加するなど、語学力を生かした地域貢献活動を行っていることなどを理由に、こちらもA評価とさせていただきます。

最後に8 ページを御覧いただきたいと思います。(5) 柔軟で機動的な大学運営に関する項目でございますが、先ほども御説明ありましたが、理事の増員や専任教員による学内理事3名を副学長に任命し、理事長・学長の補佐体制を充実させたこと。続いて、情報環境・システムの整備や働き方改革の促進に取り組んでいることなどを踏

まえまして、こちらもA評価とさせていただきます。

最後に、また戻っていただきまして、2ページをお開きいただきたいと思います。御説明しました5つの項目別評価を踏まえまして全体評価のポイントとして、まとめさせていただきます。この2ページは、すみません。ちょっと省略させていただきますまして、3ページを続いてお開きいただきたいと思います。3ページの上から2段落目でございますが、まとめとしまして、「以上のような中期目標・中期計画の達成に向けた取組状況を踏まえまして、総合的に評価をした結果、理事長・教職員が一丸となった取組により、順調に進捗している」というふうな評価を記載させていただきます。

さらに、その下の段落におきましては、「第3期中期計画の着実な達成に向けPDCAサイクルを確実に実行し、自律的・効率的な大学運営を行い、社会の様々な分野で活動できる「行動する国際人」を養成するため、神戸市外国語大学の伝統を生かして、魅力ある大学づくりに引き続き取り組まれない」というふうに記載させていただいておるところでございます。

その下の表につきましては、全体項目の評価をおさらいで記載させていただいております。

以上で、資料2の業務実績に関する評価の事務局案について、御説明をさせていただきました。

○金児委員長

ありがとうございます。

それでは、評価（案）に関しまして、意見交換を行いたいと思います。

評価の決定は後ほど行いますので、よろしく申し上げます。

ございませんでしょうか。

全体評価の2ページのところに海外インターンシップ派遣先として、「サンフランシスコを開拓する」とあるんですけども、何か文章としておかしいと思うんです。

「派遣先としてサンフランシスコを開拓」した。ちょっと意味不明で、もう少し分かりやすく書かないとちょっと誤解を招くと思うんですね。実際には、派遣先として、JETROサンフランシスコを開拓するために、JETROサンフランシスコ事務所と協定を締結するとともに、外務省担当者云々となったほうが、文章としてはこれがいいし、据わりがいいと思うんで。サンフランシスコを開拓するって、サンフランシスコに行ってインターンシップをお願いしたというふうに受け止められかねませんので。文章をちょっと変えてほしいと思います。

○事務局

了解いたしました。この文は修文させていただきたいと思います。

○金児委員長

サンフランシスコを開拓するためにJETROサンフランシスコ事務所と協定を締結し、外務省担当者や、とこういうふうが続けていたほうがいいんじゃないかと。

○事務局

ありがとうございます。

○金児委員長

ほかに何かございませんでしょうか。

6ページのふるさと納税サイトリニューアル、これは、ほかの大学であんまりやってないと思うんですけども、どれぐらいの利益が上がったんですか。

つまり、どのような品物を外大さんは用意されたんですか、まず。

○神戸市外国語大学 指理事長

用意している返礼品は、神戸の物産ということで。

○金児委員長

地場産業。

○神戸市外国語大学 指理事長

はい。会社名を言ってないんですけど、某製菓会社のお菓子のセットであるとか。

神戸ワイン、これは神戸市がつくっていますから、神戸ワインであるとか、某日本酒なんか、そういったものを、もちろん金額に応じて、いろいろですけど出させていたでいております。

○神戸市外国語大学 田中理事（総務担当）

ふるさと納税による寄附金の額でございますが、19年度で656万円でございます。

○金児委員長

かなり多いですね。

○神戸市外国語大学 田中理事（総務担当）

はい。

○金児委員長

ほか、よろしいでしょうか。

それでは、これまでの意見交換につきまして外国語大学から補足の説明等ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、評価の決定を行いたいと思いますので、外国語大学の皆さん方は一度、一旦御退席をお願いいたします。

（退 室）

○金児委員長

それでは、資料2の9ページから12ページをお開きいただきたいと思います、中期計画項目評価でございます。まず、2019年度業務実績につきまして、評価の決定を行いたいと思います。

初めに、この9ページから12ページにあります中期計画項目につきまして、御意見をお伺いします。

外国語大学の自己評価でS評価としている項目が一つありますが、そのうち評価委員会の評価（案）も同じくS評価としているものが1項目、優秀な語学教員の養成の

ところですね。そこが評価委員会のS評価です。これについて、御意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

(「異議なし」という者あり)

○金児委員長

それでは御意見がございませんので、評価は外国語大学の自己評価のとおりといたします。

続きまして、外国語大学の自己評価でA評価としている残りの45項目につきまして、評価委員会の評価(案)も同じくA評価としておりますが、これについても、よろしいでしょうか。

(「異議なし」という者あり)

○金児委員長

ありがとうございます。

続きまして、外国語大学の自己評価でB評価としている残りの1項目につきまして、評価委員会の評価も同じくB評価としております。これについて今後、鋭意、中身をリファインしていただきたいということで、B評価としてよろしいでしょうか。

(「異議なし」という者あり)

○金児委員長

それでは、評価は外国語大学の自己評価のとおりといたします。

資料2の4ページから8ページに戻ってください。

中期計画の評価が決定いたしましたので、次に、この資料の4ページから8ページにあります、中期目標項目評価につきまして、御意見を伺います。

中期目標の5項目(1)から(5)ですね。これにつきまして、外国語大学は自己評価でA評価としており、評価委員会の評価(案)も同じくA評価としております。これについても、よろしいでしょうか。

三成先生、よろしいでしょうか。

(「異議なし」という者あり)

○金児委員長

それでは、評価は外国語大学の自己評価のとおり評価理由は(案)のとおりといたします。資料2の2ページから3ページに戻っていただきまして、中期目標の5項目の評価が決定しましたので、最後に全体評価です。資料2について、まず、3ページを御覧ください。下から4行目の括弧内の順調に評価、二重かぎ括弧ですね、順調に進捗しているという総合評価につきまして、御意見ございますでしょうか。総合評価は、「順調に進捗していると認められる」としてよろしいでしょうか。

(「異議なし」という者あり)

○金児委員長

ありがとうございます。

評価(案)のとおりとさせていただきます。

続きまして、その他、全体評価の所見につきまして、追加修正すべき文言など、御意見ございますでしょうか。主には、3ページのところの上から5行目の段ですね、以上のような中期目標・中期計画の達成に向けた、その部分、5行の文章ですが、この文章でよろしいでしょうか。

(「異議なし」という者あり)

○金児委員長

ありがとうございます。

それでは、評価(案)のとおりといたします。

以上で、2019年度業務実績につきまして、全ての評価が決定いたしました。

それでは、退席いただいた大学の皆さんをお呼びいただきたいと思います。

(入室)

○金児委員長

2019年度業務実績に係る評価結果ですが、審議の結果、中期計画項目評価では。

9 ページから 12 ページの評価は全て自己評価と評価委員会の評価が一致しておりますので、これで決定いたしたいと思います。

それから、資料 2 の 4 ページから 8 ページ、中期目標項目評価でございますが、これも特段の御意見がございませんでしたので、一つ、私のほうから提案させていただきました、優秀な教員については今後の課題としていただきたいと思います。

続きまして、資料 2 の 2 ページから 3 ページに戻っていただきまして、全体評価のところですが、ここもほぼ順調に進捗していると認められるということで、委員会の意見は一致いたしました。このとおりで結構でございます。

したがいまして、自己評価と、それから、委員の評価が食い違った点は、一つもございませんでした。

## (2) 財務諸表、利益処分についての報告

それでは、次の議題に移りたいと思います。議題 2、財務諸表、利益処分についての報告につきまして、事務局及び外国語大学から説明をお願いいたします。

○神戸市外国語大学 田中理事（総務担当）

それでは、すみません。私のほうから 2019 年度決算につきまして、資料 3 の 5 ページ、損益計算書を中心に説明をいたします。

資料 3 の 5 ページでございます。損益計算書は 1 年間の全ての収益と費用を記載しております。本学の運営状況を表したものでございます。表の左側、経常費用の合計でございますが、表の下から 6 行目の 23 億 4,600 万円となっております。一方で表の右側、経常収益の合計は 24 億 1,100 万円でございます。この経常収益から、経常費用を差し引いた経常利益でございますが、これは左下から 5 行目にあります 6,400 万円でございます。この経常利益 6,400 万円に、左下から 2 行目の前中期目標期間繰越積立金取崩額 1,200 万円を加えました当期総利益は 7,600 万円となっております。この下から 2 行目の前中期目標期間繰越積立金取崩額 1,

200万円でございますが、この使途は海外派遣留学生や海外インターンシップ派遣生に対する支援、日本語プログラム留学生向けの住宅の法人借り上げ、また、体育館2階トイレの改修工事に使用をいたしました。

損益計算書は以上でございます。

続きまして、資料5、2019年度における剰余金の概要を御覧ください。資料5、19年度の剰余金の概要でございます。1. 損益計算書における利益（剰余金）につきましては、先ほど、損益計算書で御説明しましたように、当期総利益7,600万円となっております。

2. 19年度決算における剰余金の主な要因でございますが、これは、予算と決算との比較でございます。収入の増加といたしましては、①、入学者数が増加したことに伴う入学金収益の増加300万円、また、②、施設の有償利用による使用料や科学研究費助成事業など外部資金の獲得による増加300万円を上げております。また、費用の減少としましては、教職員の人員配置の見直しによる減少、マイナス7,700万円を上げております。

この当期総利益7,600万円につきまして、本学の経営努力によるものかどうかを、委員会で御判断いただくことになります。

説明は以上でございます。よろしくお願いたします。

○金児委員長

ありがとうございます。

○企画調整局企画課長

それでは引き続きまして、先ほど御説明ありました利益処分の考え方につきまして、資料6を御覧いただきたいと思います。1枚物の資料になります。こちら、神戸市のほうから御説明させていただきますが、まず、積立金の考え方ということを最初に記載させていただいてございます。地方独立行政法人法第40条におきまして、各事業年度に生じた剰余金につきましては、積み立てを行うことが原則、というふうに規定

されておりました、その内容を上に記載させていただいております。各事業年度におきまして生じた剰余金につきましては、これは法人の経営努力により生じたものかどうかにおきまして、その扱いが異なるというふうな絵になってございます。

その下の2点目、神戸市外国語大学の利益処分の考え方につきましては、(2)に記載しておりますとおり、神戸市におきましては、法人が行うべき業務を効率的に行った結果生じた利益、この場合におきましては、経営努力と認定いたしたいと考えてございます。

すなわち、行うべき業務を予定どおりに行った場合とは、その下のさらに3経営努力の認定方法についてに記載しておりますが、①学生の収容定員を在籍者が充足していること。いわゆる、定員を上回った在籍者がいるということと、評価委員会の年度評価におきまして、全体として行うべき業務を実施しているとの評価が得られること。以上の2項目により、経営努力を判断したいというふうに考えてございます。

学生数につきましては、昨年度、2019年5月現在、定数1,870名に対しまして、在籍者数2,287人となっております。定数を充足しているところでございます。また、2019年度の評価につきましても、先ほど、全体として業務を行うべき業務を実施しているという評価を委員会でいただきましたことから、令和元年度分当期総利益7,600万円につきましては、神戸市として経営努力と認定いたしたいというふうに考えてございます。

利益処分の考え方につきましては、以上でございます。

○金児委員長

了解いたしました。結論は経営努力による剰余金だということでございますが、委員の先生方それでよろしいでしょうか。いいですか。

○吉井委員

1点、教えていただきたいですけれども。

損益計算書の当期総利益が7,600万円で、これは理解しまして、普通、企業の

損益計算書の当期総利益は、貸借対照表の負債側のところに加わるんですが、ここ、利益剰余金が、しかしながら、6億8,900万もあるので私には理解不能なんですけれども、教えていただけますでしょうか。

普通、多分、これがつながっているはずなんですけど、損益計算書の当期純利益が貸借対照表の負債側の資本として加わるということなんで、この7,600万円が貸借対照表の利益剰余金のところに来るのが普通だと思うんですが、10倍ぐらい、9倍ぐらい違うのはなぜでしょう。

○神戸市外国語大学 小椋経営企画室長

経営企画室長の小椋と申します。よろしくお願いたします。

ここに上がっています剰余金につきましては、第1期、第2期からずっと剰余金として積み立てをしてる分が含まれておりますので、今回の決算だけではございませんので、これまで、今、第3期でございますけども、1期、2期で利益として積み立ててきた経営努力として認めていただいた分がそのまま残っておるという形で、6億というような数字になっておるというところでございます。

○吉井委員

差額が4,600万円であるのはなぜですか。

○神戸市外国語大学 小椋経営企画室長

すみません。今回の利益剰余金については、今回お認めいただいた中で、ここにまた、貸借対照表に上げていくということに多分、なろうかと思っておりますので。

○吉井委員

分かりました。

○神戸市外国語大学 小椋経営企画室長

すみません。ちょっと、そのあたりでちょっと数字が違うというところではないかと思われま。

○吉井委員

国立大学関係は、非常に複雑で、一部発生主義が入ってきてたり、発生主義でないものが入っていたり、いろいろややこしいので。

○金児委員長

ほかによろしいでしょうか。

○伊藤委員

すみません1点だけ。評価云々ではないんですけど質問させていただきたい。貸借対照表の資料4の財務諸表のところになってしまうんですけども、7ページ目に注記事項のところ、6番の有価証券の評価基準及び評価方法ということで、満期保有目的債券がありますと書かれているわけです。しかるに、貸借対照表を見ますと、有価証券の表示は出てこない。この点に関して、あらかじめどうということなのかということをお伺いしたら、神戸市外大としたら、債券は満期保有目的の国債とか公債しか買わない、ただし、期をまたいだ有価証券は持たない方針にしているという回答をいただいているんですね。普通、満期保有目的債券というと、満期まで随分長く持つイメージがあると。それでありながら、期をまたぐことはしないという、それも多分文書化されているのではなくて、何らかの不文律みたいな言い伝えですかね。そんな感じのお答えをいただいている、それはちょっとあまりどうということなのかなというので、お伺いしたいところでもあります。

○神戸市外国語大学 田中理事（総務担当）

本学でございますけれども、資金運用につきましては、安定した運営を行うということで、預金をメインにしてまいりました。債券については運用的にそのような、これまで取扱いをしてきたところでございますが、先生、御指摘もございますので、ちょっと、年度のものは特にございませんので、他大学の状況も踏まえながら、少し、考え方の整理も今後させていただきたいなというふうに思っております。現状では、特にそういう状況でございます。

○伊藤委員

結局、満期保有目的債券を買われるけれども、期はまたがないですよということですか。

○神戸市外国語大学 田中理事（総務担当）

現在は保有していないという、保有しておりませんので。

○伊藤委員

期中に一度、満期保有目的債券を購入されて、期中に償還があったということなので、償還ではあるんだけど、一応短期だったということですね。

○神戸市外国語大学 田中理事（総務担当）

そうですね。

○金児委員長

よろしいでしょうか。今の説明で。

○伊藤委員

一般的には分かりにくいですけど。ガバナンスコードとかもあるので、規定とかマニュアルとかそういうのも今後整備していかれたらなど。

○吉井委員

国立大学の場合ですけども、ためた剰余金が次期に持ち越せないんです。これ国立大学にあります。そうすると、今のようなことをしなければいけない。ただ、市立大学でどうなっているかまでは私は分かりません。

○金児委員長

次に持ち越せないですか。

○吉井委員

はい。

○金児委員長

厳しいですね。

○吉井委員

国の運営交付金がベースですから、余ったからといってずっとためてるわけではないというのが、国の方針です。

○金児委員長

国に没収されるということもあるんですか。

○吉井委員

没収はされないと思うんですけど。

○神戸市外国語大学 小椋経営企画室長

先ほど、私、貸借対照表上に、先ほどの利益、今期の利益が7,600万円含まれてないと申しましたけども、申しわけございません。その分、含まれておりました。ちょっと発言が誤っておりましたので訂正させていただきます。また、7,600万円と差額については、また確認させていただければと思います。申しわけございませんでした。

○金児委員長

財務諸表の16ページ、細かいことをお聞きしますけれども、非常勤教員の人件費、給与、賞与、法定福利費とあって、非常勤職員の人件費も、賃金、賞与、法定福利費とあるんですけども、非常勤講師の教員には、普通は賞与は出ないですけども、外大では、非常勤講師に賞与を出しているんですか。

○神戸市外国語大学 指理事長

恐らく、教員のほうではなくて、職員のほうに何らかの手当というか、出していたような記憶がございます。

○神戸市外国語大学 田中理事（総務担当）

すみません。ちょっと、教員のみと置いていましたので、職員につきましては、同一労働同一賃金の流れがございまして、一部、賞与を支給している職員がございます。事務職員のほうでございます。

○金児委員長

ここで非常勤職員というのは、例えば、いわゆる、嘱託職員は毎日勤務していますから非常勤ではないですね。ここでいう、非常勤というのは週に二、三回とかそういう、雇用形態は何なんですか。

○神戸市外国語大学 田中理事（総務担当）

こちら、契約職員。

○金児委員長

契約職員。

○神戸市外国語大学 田中理事（総務担当）

はい。

○金児委員長

毎日出勤してるわけですね。

○神戸市外国語大学 田中理事（総務担当）

毎日出勤してる職員と、週に三日とか。

○金児委員長

アルバイト職員という形で。

○神戸市外国語大学 田中理事（総務担当）

はい。両方ございます。

○金児委員長

両方に賞与を出しているわけですか。

○神戸市外国語大学 田中理事（総務担当）

ちょっと、全て今、詳細を把握しておりませんが、基本的に、一度に全ての職員ではございませんが、先ほどちょっと労働条件の改善ということで、組合との交渉の中で、少しずつ、こういう賞与を支給する範囲を拡大していっているというのが現状でございます。

○金児委員長

非常勤講師についても。

○神戸市外国語大学 田中理事（総務担当）

ちょっと、講師につきましても明確にお答えできないんですが、事務職員につきましても、先ほど、申しあげましたような状況でございます。

○金児委員長

非常勤職員について、ちょっと調べていただけませんか。御回答は今日でなくても結構です。

○神戸市外国語大学 田中理事（総務担当）

はい。

○金児委員長

あまり、聞いたことございませんので。

○神戸市外国語大学 田中理事（総務担当）

分かりました。ありがとうございます。

○金児委員長

それと、外大が法人化したのは、たしか2007年ですね。法人化すると、自治体にとって、国もそうですけども、メリットは自分ところで稼げと。ですから、自治体にとって、自治体から独立するんであったら、もう運営交付金も最終的には出しませんと。僕ら当初言われましたけれども、だけど、このところの運営交付金の推移を見ると、むしろ、2014年から15年、16年、19年、ずっと上がっているんですね。運営交付金は下がらなくて逆に上がっている。それは、我々にとって、少なくとも私の経験からすれば非常に羨ましいことで、なぜ、そういうことが起こるのかということなんですけども、これは毎年上がって、変動があるんだったら、退職者がこの年はたくさん出たから引当金が結果多くなったという、そういうことが起こるのは分かるんですけども。そうじゃなくて、恒常的にずっと上がって、最近は下がっているようなんですけども、上がっているのは、これは市の特別の配慮があるんですか。

○企画調整局長

この運営交付金につきましては、毎年度、私どもと所管をいたします企画調整局と、財政当局のほうと、しっかり議論をしております。特に、必要経費に加えて、あと、こういったことが必要かということで政策的に、神戸市としては、私ども企画調整局としては、やはりこういったところをさらに強化をしていきたいということ、財政当局と、かなりやり取りをいたしまして、年度によっては、違ったところが出てくるんですけども、確実に外国語大学がしっかりブランド力を向上するというところを実行できるような運営交付金を出せるようにということで、努力をしているところでございます。

また、私ども、市会のほうでも外郭団体の特別委員会というのがございまして、この場においても、これは非常に恵まれた状況かも分かりませんが、各会派とも外国語大学の応援といいますか、かなり、さらなるブランド力の向上ということで、市、外大、両方とも努力をしてもらいたいということが総意としてございまして、そういう背景もあって、運営交付金の財政当局に対する確保というのが、何とかなっているというのが実情でございまして、これから財政が厳しくなってくる折からですから、将来のことまではなかなか見通すことは難しい部分があるんですけども、さらに、しっかりと運営交付金を確保できるように、努力をしてまいりたいというふうに考えているところでございます。

○金児委員長

分かりました。

○神戸市外国語大学 田中理事（総務担当）

委員長、少し補足させていただいてよろしいでしょうか。運営交付金でございますが、先ほど、委員長御指摘のように、この額は退職金ですとか、施設の修理費も入っておりますので、これは年度によって増減がございます。これを除きます、いわゆるベースの部分の運営交付金でございますが、これにつきましては、2007年の法人

化してからの第1期の計画期間中は、毎年1,600万、毎年減少しております。これは計画策定時に大学と神戸市との間でこういう取決めになっております。2013年からの第2期につきましては、毎年700万、運営交付金のベース部分を減らしていくという、そういうことになっております。昨年度から始まりました第3期も計画期間中ですが、これにつきましては、1期、2期のように毎年定額で減らすというふうなことは協議しておりません。第3期につきましては、毎年、予算の時期に次年度の交付金については協議をしていくと。そのような、大学と神戸市との間でそういうことになっておりますので。

○金児委員長

それはもう、局長おっしゃったことですね。今現在の状況、運営交付金の状況というのとは。

○神戸市外国語大学 田中理事（総務担当）

そうです。今がその状況でございます。法人化から1期、2期についてはもうずっと毎年定額で減ってきておりますので、合計で法人化前に比べて約1億円以上、年収ベースでは減少をいたしております。

○金児委員長

分かりました。神戸市と大学のほうは、現在、非常にいい関係だというふうに理解したいと思います。それでは出されました御意見につきまして、大学はそれを参考として今後の大学経営に活かしていただきたいと思っております。

それでは、最後の議題に移りたいと思っております。

### (3) ガバナンス・コードについて

議題の3、ガバナンス・コードの報告につきまして、大学のほうから説明をお願いいたします。

○神戸市外国語大学 指理事長

それでは、ガバナンス・コードについて御説明させていただきます。資料は7というものがついておりまして、これは簡単にまとめたものでございますけども、その資料7を順番に説明させていただきます。

まず、ガバナンス・コードにつきましては、昨年のこの評価委員会の席で策定に向けて動くようにというような御指摘がございました流れを受けております。まず、大学を取り巻く環境についてですけれども、これはもうここにお集まりの方皆さん、御存じのとおり18歳人口が減少しておりますし、近隣の競合大学などでやっぱり、国際系の学部・学科が増設・改組されておるといことで、そのまま何も手を打たなければ、本学を取り巻く環境は非常に厳しいものになるという認識が出発点となります。

そして、そういう状況の中で本学に対するミッションとして、これは神戸市のほうから期待されている部分ですけれども、グローバルに活躍できる人材を育成すること。それから、大学ブランドを磨いて、神戸の魅力というのを全国、さらに世界に発信するようにということが、ミッションとして設定されております。このミッションを実現するために、大学のガバナンス体制を強化する必要があるがございます。アイデアをできるだけ早く実現するということで、トップダウン型の、できるだけスピーディーな改革運営が可能になる。そういった体制を確立する必要があるというふうに考えております。そのため、昨年のこの評価委員会で御指摘がありましたように、ガバナンス・コードの策定をする必要があるという認識でございます。

さらに、文部科学省のほうからもガバナンス・コードを策定すべしという動きがございます。既に国立大学協会もガバナンス・コードがつくられておりまして、国立大学はそれを基に進めていくようですし、そして、私立大学協会のほうでは、ひな形をテンプレートのようなものが策定されまして、それは私立大学、各大学で、それを基に策定の動きが進んでおります。

公立大学につきましては、実は、公立大学協会のほうで策定をしようという動きが昨年度にあったのですが、結局は公立大学というのは各大学、設置者の目的とかが余

りにも違い過ぎますので、協会として、一つのものをまとめるのは無理だということで、昨年の終わりぐらいにその辺の動きが放棄されまして、各校頑張れという形になりました。ということで、私も昨年、ここで宿題をいただいて、ガバナンス・コードというのは考えておりましたが、公立大学協会の動きを見てからというふうに考えておりましたが、その辺のちょっと、出発点がなくなりましたので、ここで、本学独自のものをつくる必要が出てきたということになります。

その際、そこに反映すべき本学の現状認識、そして、課題ということになりますけれども、やっぱり法人化、本学は、先ほど、委員長からも指摘ありまして、2007年の法人化ってというのは、公立大学ではかなり早い時期の法人化でございますので、ちょっと、法人化というのは何かがよく分からない中で法人にしてしまったようなところがございまして、法人の意思決定に係る仕組みが現在の大学の仕組みとしては、ちょっと不明確な部分がございます。

例えば、経営協議会、それから教育研究評議会、教授会と審議会として三つございますけれども、おのおのが何を審議するのかっていう流れなども、きちんと整理されてないところがございます。さらには、2015年に学校教育法が改正されておりますけれども、それに伴って見直しすべき点がございましたのも、きちんと反映されていないところが散見されます。そして、それは結果として規程類の体系化がなされていなくて、非常に複雑な構造になっていると。これは法人化以前の慣習っていうのが非常に強く残っているという面がございまして、これをきちんと整理していく必要があるだろうと。これを整理すれば、ガバナンスの体制ですね、物事の決め方のルールが非常にクリアになっていくというふうに考えております。

それを、そういう問題、課題というものを考えていきますと、ガバナンス・コードを策定することで、法人の意思決定過程を整理するということですね、同じことの繰り返しになりますけれども、各審議会の責任配分を明確化し、重複を避けるということになります。それに伴って、規程類を整理していくという、そういう必要があるとい

うふうに考えてございます。

文科省のほうはいつまでにつくれという流れはまだ明示されていないのですけれども、これは当然、次の、新しい大学の設置基準の中に組み込まれる可能性がございますので、それを待っていたんでは多分、間に合わないと思いますので、できるだけ早く策定をする必要があるというふうに考えております。

ということで、今日、この評価委員会でいろいろ御意見を頂きまして、その意見を踏まえて、秋に学内で議論を進めていきまして、できれば、年内にガバナンス・コードを策定することができれば、年明けから順次、学内規程を整備していくというふうに進めることができれば、よいかなどというふうに考えております。

これは、ガバナンス体制を整えるという項目は中期計画の中にも記載しておりますので、出来上がったものは来年のこの評価委員会でまた御報告させていただいて御判断いただく、また、御意見を頂ければというふうに考えております。

ガバナンス・コードの必要性、そして、今後の見通しということで、簡単に説明させていただきましたが、今日はこの場で委員の皆様から忌憚のない、もうこれはおかしいじゃないかとか、こうするべしというような御意見をいろいろいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

○金児委員長

日本には国立、公立、私立と3種類の大学が存在しておりますけれども、私学は設置者が建学の精神、理念を持って設置されましたので、理事会の意向は非常に現在も以前も、昔も強いです。ですから、大学の経営、あるいは将来に向けての方針、そういうものは全て理事会で決定されております。それに対しまして、国立大学、公立大学におきましては戦後70年にわたりまして教育公務員特例法というのがあって、その特例法に基づいて学部教授会を中心とする大学運営が行われてきました。現在でも、多少、濃淡はありますけれども、学部教授会が大学の運営、経営に関与しているという、そういうことが続いている大学もあります。神戸市外大もそういうふうな側面が

あろうかと思えますけれども、それはもう、完全に打破しないといけない。今の大学の運営、経営の状況、そして文科省、教育再生実行会議でしたかね、それと中教審、内閣府も含んで、大学のガバナンスの強化ということを平成24年、25年あたりから盛んに言ってきました。それで、いち早く国立大学のガバナンス・コードが上位下達のような形で策定されて、私学についても同じようにひな形が提示されて、ほぼそれに見合った形で、それぞれの私学がガバナンス・コードを策定しております。

残されたのは公立大学だけで、早くガバナンス・コードを策定しないといけない。なぜ、そういうことが国のほうから言われているかということ、現在の少子高齢化、あるいはグローバル化が進む中で、国公私を問わず、大学運営において非常に厳しいかじ取りが求められている。そういう中で、それぞれの大学が組織のスクラップ・アンド・ビルド、あるいは新しい人事配置、予算配分の見直しというものを積極的に図っていかないといけない。それは学部教授会が決めることではないわけですね。もう学部教授会は、もう学校教育法にある教育と研究だけに精進していただいたら、それでいいことで、大学の経営、運営に口出しすることは、今後あってはならないというふうに、これは私の意見じゃなくて、国がそういうスタンスですずっと動いているから致し方ないんですね。ですから、そのことで神戸市外大も今後進めていくということを決意を持って、実行していただきたいというふうに思います。最終的に責任を負うのは理事長ですからね。だから、責任を負うことのない教授会が意思決定過程に関与するというのはとんでもないことです。でありますので、ガバナンス・コードを策定、ガバナンス・コードの策定もね、教育研究に係る部分は、教授会の意見はどんどん発言していいと思うんですけども、だけど、ガバナンス・コード自体については、これは教授会で決めることじゃないわけで、執行部のほうで決めていかないといけない。教授会はその報告を承ればええという、そういうふうなことだというふうに思います。ですから、現在の、以前から国公立大学において、教授会を中心とする大学運営を行われてきたような大学については、今年度中に、それを改める必要があろうかという

ふうに思います。

それで、国の法令というのは文科省からのトップダウンで来た部分については、これは法令に適合しない、もし、内部規則が存在しておればですね、大学の中に。それは当然、見直しを行わないといけない。ガバナンス・コードを策定すると、おのずと定款にも関係してくる部分が出てくるので、定款も変えないといけない。これは大事な点だと思いますね。ですから、これまでの教授会の規程、そういう部分についても廃棄したり、見直しをして文言を修正するとか、そういうことをやっていかざるを得ないわけで、神戸市外大の先生方にもその辺の御理解をぜひよろしくお願いしたいというふうに思います。

私のほうから、ガバナンス・コードについて申し上げることは以上でございますが、委員の先生方から何かございますでしょうか。

○吉井委員

理事長の役割は、あくまでも、国立大のガバナンス・コードのところでは、長い文章なんですけど、要はリーダーシップという文言がずっと出てきます。要は、国立大学も公立大学も設置者は国として、公共団体の違いはあるんですけど、普通でいう、私立大学の理事長と学長を兼ねているわけで、つまり、経営と教育研究を一体化した長、そのところで、両面においてリーダーシップを発揮するということが求められているので、それを多分、明確化しなければいけないんだろうなと思います。

○金児委員長

それでは、ガバナンス・コードは、今年度中に策定して、来年度から、それに基づいて運営していくということで、よろしく願いいたします。

ほかに御意見ございませんでしょうか。

それでは出されました御意見を踏まえて、引き続き、ガバナンス・コードの策定に鋭意取り組んでいただきたいと思います。

本日の議題は、以上となっております。

そのほかに議題に関わらず、この際、御意見・御質問ございましたら、お願いいたします。よろしいでしょうか。

どうぞ。

○神戸市外国語大学 中野経営企画室経営企画グループ長

先ほどの委員長の御質問で、非常勤教員の賞与の件なんですけれども。ここに入っている賞与につきましては、教員の中で嘱託身分を少し持っている、常勤的に来てる人間がいるんですけども、その嘱託の人間のほうに賞与を出してるということを、ここにちょっと記載をしておりましたが、確かに、少し分かりづらいことと、ちょっと誤解を生むということもございますので、来年度からは少し整理をさせていただいて、おっしゃるように非常勤講師についてはボーナスを出しておりませんので、嘱託身分を持っている、常勤的な非常勤教員、ちょっと言葉が矛盾しておりますけれども、そういった形で、数字の整理を今までしておりましたので、そこの数字の整理の仕方を来年度から改めさせていただければありがたいかなと思ってございます。

○金児委員長

よろしくお願ひします。

○嘉納委員

すみません、今日の評価に関して、私、広報の観点でAという評価されていたことに同意していますので、特にコメントしなかったんですけども、ちょっと、1点だけ、今年度というか、次の、来年度の評価になると思うんですが、広報の観点で、参考になるような意見ができればと思って、少しだけコメントします。

1点は、コロナ禍での学内、学外のメッセージということで、ホームページでも、学長からの非常に心温まるようなメッセージが公開されていまして、それを非常に、私も、感銘を受けました。広報に力を入れられるということで、今、順調に進捗されていると、私も見習うべき点がたくさんありましたが、改めて、恐らく学内に対しても影響があると思うんですけども、学内のコミュニケーション、今年度、力を入れて

らっしゃると思うんですけれども、さらに意識されるといいなと思いました。特に、コロナに関しての学生へのメッセージというのは、社外に対するメッセージも、学外へのメッセージにも、次、入ってこられる方へのメッセージにもなると思うので、引き続き、大事にされているように私も受け止めているんですけれども、努められたらいいんじゃないかなというふうに思いました。

それから、情報収集をする仕組みとか、SNSやユーチューブの開設など、本当に様々、昨年度なさってしまして、恐らく今年は、様々なアクションに対する本当に受け手の方がどう受け止めてらっしゃるかという、満足度調査されてましたけれども、実際、学内広報であったりとか、SNS、ユーチューブっていうのが、どういう、次、受け手がアクションにつながっているのかっていうのを見られると、また、さらにいいんじゃないかなというふうに思いました。

以上です。

○金児委員長

ありがとうございます。

今のメッセージも受け止めていただいて、来年度に向けてよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは事務局に、あとを引き継ぎますので、お願ひいたします。

○企画調整局企画課長

大変、議論、白熱いたしまして、ちょっと予定時間を若干過ぎておるんですけれども、これを持ちまして、本日の評価委員会を閉会させていただきたいと思ひます。

先生方におかれましては、お忙しいところ、遠方まで御足労いただき、また、すごく暑い中、お越しいただきまして、御討議いただきましたことを感謝申し上げたいと思ひます。頂いた御意見も踏まえまして、また、外国語大学の運営に生かしていただきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。

それでは、閉会といたします。